

地域おこし協力隊 成果報告会

奥松瀬川地区担当
森田将史

地域おこし協力隊としての役割

◆事務局(マネージャー、コーディネーター、プレイヤー)

- 事業計画の策定
- 方針や目標の設定
- 意見の調整
- 人の調整
- 事務支援

事業における役割の変化

事業計画や方針、方向性の策定 …… マネージャー



意見調整・とりまとめ …… コーディネーター



**事業の実施、推進、試験運用、運営 …… プレイヤー
(相談、報告、相談、連絡、相談、相談)**



人の管理、連絡調整 …… マネージャー、コーディネーター



事業の引き継ぎ、主導権の譲渡 …… プレイングマネージャー



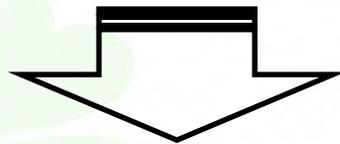
事務支援 …… 事務局



巻き込み型後方支援

地域課題の洗い出し

- 廃屋や空き家、放置竹林の増加による景観の悪化
- 高地より広がり続けている耕作放棄地
- 地域内における情報伝達不足
- 東温市内においても低い知名度、注目度



課題解決＝地域創生事業

交流拠点整備

交流拠点「ほっこり奥松」 ※廃屋の再生

地域内外のお客様が気軽に立ち寄ることができ、交流を深め、地域の魅力を伝える基地施設として建設

※初年度実績

利用者数 6,000人(内 地域住民 5,000人)

総売上 3,800,000円

※今年度実績(平成30年度11月現在)

利用者数 4,500人(内 地域住民 3,200人)

総売上 2,800,000円



ピザ窯の製作

野外体験のメインメニューとして地域住民と共同製作

※初年度実績

総売上 160,000円(障がい者利用 2組 18名)

※今年度実績(平成30年度11月現在)

総売上 240,000円(障がい者利用 5組 35名)



地域のための交流拠点

地域コミュニティを強化することで、地域内循環型経済を確立させる。
そこに地域外からの来訪者が加わり、新たな交流が生まれ、移住促進に繋がっていく。

- ◆大人の学校を開催(手芸教室、パン教室、竹加工教室)
地域住民による地域住民のための交流の場作り。
教室での活動がきっかけとなり、手芸品やパンが商品化。
- ◆販売コーナーの設置
農産品、手芸品を販売できる場の創出。
- ◆食事の提供
菓子製造の許可を取り、パンの販売が可能となった。



女性が中心の運営



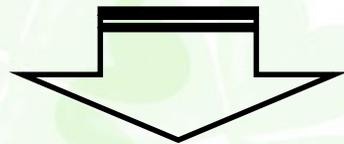
交流拠点の再整備

◆直売所の建設

各種教室や商品化に向けた活動が活発となり、確保していた販売スペースが手狭になり直売所を建設

◆車イス利用者への対応

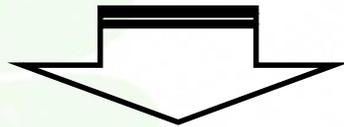
路面の一部をコンクリートに整備、荒天時にも野外体験ができるように通路の整備



すべての人が利用しやすい施設へ

交流拠点「ほっこり奥松」の効果

- ◆地域住民の集いの場
地域住民をメインのお客様と捉え、地域住民の声に基づいた運営を行ってきたので、日常生活の一部として利用する人が多い
- ◆自立した運営
当初は協力隊による運営だったが、徐々に地域住民による当番制を導入し、少しずつ負担することで週5日の営業が可能となった
- ◆小さなチャレンジ
各種教室を通じて、協力者や関係者が増えてきており、商品化・販売することで生きがいになっている

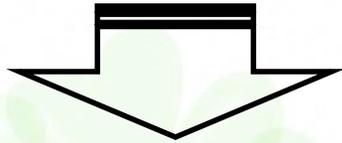


日常生活 + 無理をしない挑戦

広がり続けている耕作放棄地

耕作放棄地の再生

- 地域外から人を呼び込む
- 収益が生まれる仕組みを作る
- 農地の持ち主及び地域住民の負担を作らない



交流農園「ぽんぽこ農園」

農園利用者が区画割りした農地を利用することができる交流農園を開設
(農地法:農園利用方式)



1年間の試験運用を経て、付加施設を充実

◆道具置き場兼休憩施設の建設

利用者の利便性をよくするため、利用区画内に休憩ができる建屋を建設し、利用区画外に常備していた農具を区画近辺に移動

◆バーベキュー場の整備

利用者が家族や仲間を楽しむ場所作り、川遊びも可能

◆ドッグランスペースの整備

ペット連れの利用者が安心して農作業に集中できるように、獣害対策用の柵で囲ったドッグランスペースを整備

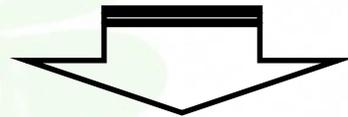


◆ツリーハウスの建設

家族で農園を利用するお客様が増えてきており、子供が楽しめる施設としてツリーハウスを建設予定(平成31年3月完成)

交流農園「ぽんぽこ農園」の効果

- ◆利用料金による収益の確保
収益が確保できたことで、農園の管理作業(草刈り、水のくみ上げ)を地域住民に依頼できるようになった
- ◆交流人口の増加
利用者は地域外(東温市内、松山市、砥部町)から訪れており、農業指導を通じた交流が活発になった
- ◆景観の改善
当初予定していた耕作放棄地だけでなく、ぽんぽこ農園周辺の耕作放棄地が収穫体験畑や付加施設となり、笹竹や雑木の伐採、石垣の修復も行った



集落の復元

竹林整備

◆放置竹林マスターズ結成
地域資源「竹林」の利活用に取り組む

◆体験プログラム開発
そうめん流し、竹筒ごはん、竹の水鉄砲
※そうめん流し体験の試験運用後、
次年度以降の体験プログラム化

◆商品開発
門松、竹炭、竹酢液、竹灯籠、竹チップ・パウダー
※ミニ門松の製作販売

初年度実績	40個	90,000円
今年度目標	100個	200,000円



地域の知恵袋の活躍



情報共有と知名度アップ

◆地域新聞発刊

地元住民に全戸配布し、地域
内で情報を共有すると共に東温
市各所にも配布することで、知
名度の向上と取り組みの周知

奥松瀬川まちづくり新聞 第29号
平成30年12月5日発行 発行元：奥松瀬川創生会

ピザ窯フル稼働
秋は野外で遊ぶのが心地よい季節です。ほっこり奥松では、石窯を使った野外体験が大人気。多くの方に利用していただきました。

LINEスタンプ
奥松瀬川の妖精「ほっこりちゃん」のLINEスタンプが完成しました。

お正月には...
ほっこり奥松の直売所にて、門松の販売を15日頃から開始します。

クリエイターズスタンプ
奥松瀬川
みこころの妖精「ほっこりちゃん」
¥120
LINE STORE にて販売中です!!

★ 奥松瀬川の情報を見て、遊びに来てください ★
☆奥松瀬川ホームページ：「ほっこり奥松 ほんぽこ農場」
<http://okumatsu.org/>
☆facebook ページ：「手づくりの里 奥松瀬川」
<https://www.facebook.com/okumasekawa/>

お問合せ先：奥松瀬川交流拠点「ほっこり奥松」 050-1239-1606

その他継続性のある取り組み

◆夏祭り

地域住民及び帰省客を対象とした地域行事の復活
今年度より公民館行事に組み込まれ、定例化が実現

◆収穫祭

イベント規模の拡大に対応するため、シャトルバスと折込チラシの導入を
補助金を利用し試験運用。昨年度より継続運用が決定。

◆山の音楽会

地域住民と地域外協力者が連携し、奥松瀬川地区とゆかりのある音楽を
中心に演奏会&ミニ即売会を定期開催(3ヶ月毎)

単発モノ(イベント・物品)の排除

次に繋がらないモノ、地域との関連性がないモノ、地域外からの押し売り企画、
地域外からの集客だけを狙ったモノ、地域住民の還元が低いモノ

誰もが活躍できる

- ◆イラスト案内看板の製作
イラストと文字で作った温かみのある手作り案内看板を地域各所に設置。
- ◆イメージキャラクター「ほっこりちゃん」に任命
イラスト看板に登場する作者にそっくりなキャラクターが地域のイメージキャラクターに着任。
LINEスタンプやほっこりちゃん人形の商品化をはじめ、パンフレットやイベントのぼり、スタッフジャンパーに登場し、地域から愛されている。
- ◆特別支援学校との繋がり
誰もが楽しめる場所作りがコンセプトとなり、車イス利用者の為の施設整備、障がい者割引を導入。
- ◆手作り結婚式&披露宴
私たち夫婦の結婚式(ほっこり奥松)～披露宴(奥松瀬川公民館)を地域住民がプロデュース・演出。

